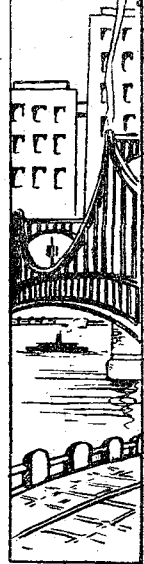


論 說



都市計畫の精神的意義

奥井復太郎

現代都市計畫は誕生が新しいと云ふものゝ既に數十年を経ており、吾國の都市計畫法にしても大正九年から今日迄、既に二十年に垂んとしてゐる。其れにも拘らず、都市計畫や其の事業が本質的に一般民衆に理解されてゐるかどうかと云ふと頗る疑問的である。人々は都市計畫はじめ、道路其他の土木建築の事を依然、道路工事や下水工事一般に土木工事としか考へてゐないのであるまいか。勿論今日では廣場を造り、綠地を設け、遊園公園等を設計し、風致地區を保存したりする事から、若

干都市計畫が市民の耳や目に親しまれて來たには相違ない。しかし市民は依然此の形象的方面にのみ捉はれてはゐないだらうか。勿論都市計畫や道路事業そのものは具體的な形象的な仕事である。しかしそれがかゝるものとして現はれる背後には、もつと大きな内容が控へてゐる事を忘れてはならぬ。之れを忘れ又は看逃すから、單なる土木工事下水工事と看做して深甚の注意を拂はなぬ様になる。本誌の此の機會を借りて、かう云ふ土木事業の廣くは都市計畫の精神的意義を闡明してみたいと思ふ。

二

普通都市計畫の定義によると、都市計畫とは都市及びその附近の地が時と共に進む可き健全なる方向を決定し、調和ある有機的發展を可能ならしむべく指導し、秩序ある能率、よき都市生活、延いては一般生活を行はしむる努力である(片岡吉田著「都市計畫」による)我國の都市計畫法では、交通衛生保安聯絡等に關し、永久に公共の安寧を維持し、又は福利を増進する爲の重要施設の計畫にして市の區域内に於いて又は其の區域外に互りて施行すべきものとなつてゐる。しかし都市と云ふ生活體を一體とし且つ全社會(全國)との關聯に於いて組織立てる工學的技術とする點に於いては先づ何人も異議あるまい。所で工學的技術だとして、今假りに例を建築にとつて見ると、何人も自分の家を建てるのに、住む本人の生活實體を考へないで家を建てる者はなからう。即ち工學的技術は其の内に住む

人間の或ひは社會の生活實體及び生活思想乃至は理想を表現したものになつて來る。表現したと云つて云ひ過ぎなれば、盛り込んだもの、包み込んだものとなつて來る。「山師の玄關と稱して外觀を立派にするものもあれば、衛生保健本位で實質的に行かうとする者である。いづれも住む人の氣持が形に現はれて來る。乃木大將の場合では既に立派であつた事に將軍の心情が偲ばれる様に。

歐洲の中世都市を遠く眺めると教會の尖塔が高く天空を衝いてゐる。それはニューヨークの摩天樓の衝き方とは趣が少し違ふ様である。西歐の哲人は此の教會の尖塔を眺めて「何故に彼等は空高く指さすか」の問に對して「其れは中世都市々民の神に對する謁仰心の表現である」と答へた。如何にも是等の尖塔や領主居城の卓越した建物を中心に取り巻いて出來た中世都市の景觀は社會的思想的に寄據すべき柱を持つた統合された正しき社會の姿と見る事が出來る。城壁城塔城門は嚴然として己の生活を守護してゐる。廣場に臨むライトハウス及び商館は市民的町人的活動の其の勢力威容表徴に外ならぬ。自由濶刺で意氣軒昂たる當時の市民精神が此の形象を造り上げた。

ウンター・デン・リンデン及びブランデンブルク・トアを行進する獨逸陸軍の威容に曠稱の聲を惜しまなかつた留學生がある。それはお上りさんや觀光外人のうるつき廻る時のソレとは全く異なる光景であり精神である。筆者は大正天皇御即位の大禮に際し宮城御出門の時の、曉天下に於ける壯嚴極りなき光景を忘れる事が出來ない。又明治天皇御不例の報が傳つて幾千の國民があつた廣場に參集し跪座して御平癒をお祈り申上げた光景も生涯に忘れ難き印象である。

して見れば、是等の城教會街路廣場いづれも精神的內容と結びついてゐると云はねばなるまい。凡べての路は羅馬に續いてゐると云ふ。其處には羅馬大帝國の支配力が及んでゐる證據であり、又邊陲の土民はその路に立つて遙かに眺んで首都羅馬の光景を想像したであらう。かゝる意味で景觀は一つの社會的精神的生活の表示となり、其れに不可分的に結合してゐる。

三

扱此の景觀を、その内に行はれる生活集團と其の地域との關係に就いて觀察する時、茲に生態學が登場して來る。生態學とは生物——人間の社會的群生關係の地域的規定を取扱ふ學問である。故に聚落は、云ふ即ち生態的現象であり、其の意味で都市も亦、生態現象である。政治の中心、學藝の中心、商業の中心、交通の中心等々それらに應じて市民は機能的に關係して來る。政治の中心として、支配者は最も其の爲めに便利な地點を撰んで居を構へる。すると其の土地に此の支配者に奉仕すべき諸機能を持つて一群の人口が追従する。例へば家臣が集る、工匠が集る、學識者が集まる、美術家が集まる、藝人が集まる。又是等の土地は支配者の經濟力が大であるから、之れを目當てにしての商人が集まる。かう云ふ地域的な群生狀態は、例へば城下町の如きは政治的中心としてのみ見られるものである。故に事情が變化して來ると、此の群生狀態も違つて來る。昔の城跡が廢墟になつてゐる例は決して少くない。歴史は長し七百年で鎌倉幕府の過去は、唯、名所舊蹟にのみ残つて、今日の鎌倉

は全然別個な存在となつて了つてゐる。故に此の生態現象は次の三點に要因を持つてゐると云ふ事が出来る。即ち(一)土地。(二)生物、茲では人間社會。(三)全體的關係がそれである。實際には三者が個別的に作用するものとは考へられない、殊に人間社會の場合には、なほ更である。例へば東海道五十三次は、當時の(徳川時代)社會的全體的關係の内に規定された土地と人間社會との關係である。品川宿、川崎宿、神奈川宿等當時の全體的關係で宿驛として成立した。其の規定内に地域(土地)と其の上人間社會の群生状態が支へられてゐる。全體の社會經濟状態が全く變り、之れに應じて前記の土地が全體關係に保つ位置が變化して來た爲めに、品川、川崎、神奈川は最早舊態を留めない。それは東京と云ふ巨大都市の體制下に納められて了つてゐる。従つて本陣とか旅宿とか驛馬と云ふ様な體制はなくなつて了つてゐる。工場地帯になつたり、住宅地帯になつたりして、別の生態的景觀が發生してゐる。

しかし全體的關係が有力であるとしても、他の二要因がそれぞれに作用する場合もある。土地そのものにも變化の生ずる事がある。所謂滄桑の變で、かゝる場合には其の上に立つ生態に變化を來す。天變地異許りでなく、人間が土地資源を採盡した場合なども、同様な變化が起る。又も一つの要因たる人間及び社會に變化が起つた場合にも生態現象の異動が起る。例へば單なる出稼移民の植民地から、家庭的定住移民を迎へる様になつた場合、其の土地(植民地)の生態に當然の變化が起るが如き場合である。

以上三つの要因中、人間社會及び其の生態現象にとつては全體的關係が基本的であるのは疑ふ餘地が無い。都市生態の場合殊にさうである。蓋し都市は社會又は一國全體の社會經濟的組織裡に成立してゐるものであるから。都市が文明の中心と云ふが此の意味では正鵠を得てゐる。其處で生態的景觀的に都市の中心現象を示すものは、先づ第一に交通機關交通脈の集中である。逆に見れば都市を結節としての交通脈の放射である。道路體系で云へば國道及び幹線道路、或ひは街道と稱せらるゝ性質のものが之れに當る。此の現象、即ち此の形象的實在が無ければ都市は全國の、或ひは附近の地方の中心として成立し得ない。既に述べた様に一本の街道が羅馬の所在を指してゐると同様である。試みに一條の街道に沿ふて中心都市の方に歩を向けしめよ。並本道の左右に青々した田畑や林叢を眺める事、時折、追抜いて行くトラツクの外には農民的附近の人々に出逢ふ丈けである所から、都市に近づくに従つて、人家が稍、數多くなつて來る。其の人家も農家、田舎建でなくて都會風になつて來る。街上の人物も田舎風を段々失つて來る。田畑林叢が少くなつて來る。トラツクの外に旅客自動車や自轉車が多く眼につく様になる。工場の煙突もあちらこちらに立つてゐる様になる。即ちやがて郊外地に這入んで了ふ。それから後は純然たる市街地、左右は人家商店、或ひは工場で空地の外には廣い青々した田畑を見る事が出來ない。しかし軒並は低く、建築は粗末で所謂場末的景觀を示してゐるが、漸く都心に近づくに従つて、是等の建築は高く且つ壯重に、街路は整然となり、商店も殷賑を極めるに至り、交通も輻輳煩雜を加へて來る。かくして此の凡べてが生態的景觀

的に都市そのもの、生命生活を如實に物語つてゐる。

四

都市計畫は此の事實及び此の關係に基いて發足しなければならぬ。しかし都市は全國的意義の外に、地域社會としての地元としての意義を持つてゐる。六百萬人口の大都市は、全國的世界的關係に基いて發生したものであるが、六百萬の人口が、一方ではその土地に生活を營んでゐるが故に、此の生活の一面が又都市にあつては表現されて來る。一市民に就いて見れば土地との關係は職場と住宅との二面である。斯くして工場やビルディングは全國的にも意味を持つが市民的にも意味を持つ事になる。殊に住宅や商店街は純然たる市民的關心に終始するものと云つて差支ない。故に都市全體が全國的意味で規定された生態現象であると共に、都市の内部にも細部に互つての生態現象がある。例へば植物生態に就いて見ても、南側と北側とでは其處に成長してゐる植物に相違が出來て來るであらう。常識的に云へば日當りの悪い北側には蘚苔類が生長するであらうし、南側には草叢が繁る。都市で云へば低地濕潤の地區は貧民街となり高燥形勝の地は優良住宅地となるが如きである。即ち一都市に六百萬の人口が養はれる事は、全國的に規定せらるゝ事實であるが其の六百萬の人口生態は、勿論外部的規定もあるが、大部分内部的に規定されてゐる。再び都市計畫は此の關係も無視する事が出來ない。兒童遊園を全市的に設けると云ふ。成程山の手や郊外地ならば土地

面積の上からなほ相當面積の遊園を設けることが出来る。しかし下町殊に中央市街地にあつては特に其の設置が容易に可能であらうか。又家屋密集の下町地區に設けらるべき餘地公園の如きは決して廣面積たるを得ない。従つて幽邃であるとか、自然美林叢美を出す事は困難である。しかし塵埃にまみれて生色を失つた樹木が寂しげに立ちならんでゐる小公園でも、地元の人々にとつてみれば一個の立派なオアシスである。殊に彼等が平生に遠く市外に出遊して都塵を洗ふの機會及び手段を持たぬ人々である限りに於いてはなほ更である。

各個の市民に就いて見れば、既に述べた様に職場と居宅とが土地關係に於いて最も重要な關心となる。公式的に云へば所得の豊かなる者は職場から遠く隔つても、居宅として生活上の最大利便を享受し得る地點に居を構へる。反對に所得の乏しい者は、居宅としての利弊よりも常に職場に近い所に居を移す。居宅と職場との距離の長短は、富及び所得の大小に比例する。此の距離は、地理的距離であると共に、交通費及び交通時間に現はれる距離でもある。午前七時、八時の通勤通學者には、あまり遠隔地よりの通勤通學を許さぬ。午前十時出勤の重役課長級は、通勤交通に多少の長時間を割いても差支ない。米國都市に見る様に自家用車で通勤と云ふ事になれば、益々距離が遠くなつても差支ない。従つて住宅景觀をとつて見ても一地區の社會的經濟的乃至は職業的身分的構成が分明する。職場景觀としても同一である。工場景觀は附近の勞働者街を、ビルディング街景觀は通勤者群、ラツシュアハーを想起させる。従つてビジネスセンタアなり、工場地帯なり、商店街なり、住宅街な

りに計畫を施す場合、此の生態現象に十分の注意を拂はねばならぬ。

五

以上の現象を道路設計に就いてみよう。此の問題は既に本誌に發表した事があるので、茲では簡単に述べさせて貰ひたい。既に述べた様に中心都市には幾多の交通機關と共に街路交通脈が四方から集中してゐる。是等は市内に入つて都心地に集結する。或ひは全國的幹線でなくて、附近の聚落を結ぶ路線がある。交通機關で云へば郊外鐵道又はローカル線に該當するものであり、此の意味の路線及び道路の完成は比較的近來の事である。即ち母體都市を中心として交通機關、郊外電車や鐵道の敷設はあつても、充分なる街路の開設が無かつた状態は極く最近迄、郊外生活者の經驗してゐた事であらう。かゝる全國的乃至は地方的交通に必要な街路許りでなく、市内になほ若干の幹線が必要となる。前記の街路が放射式に集散するとすれば、是等の諸線を横に繋ぐ路線が必要となり、環狀幹線が之れに當る。之れが都市交通の大動脈である。之れに附隨して、最後の末梢末端に至るまでに、一つ乃至二つの道路階程がある。所謂連絡路線と云ふのがそれであつて、幹線は此の連絡路線を経て末梢末端に結ばれる。末梢末端の道路は都市内の一小地區に係るものであつて、其の地點に存在する人口の多少に上つて道路の廣狹が決まつて來る。しかし以上の道路體系中にあつては最も狭く且つ最も趣のある道路でなければならぬ。

前の例を以つて云へば工場街やビルディング街等の職場景觀には不可分に幹線道路が結びつくであらうし、住宅景觀には狭い(理想的に云ふならば)落着いた末梢的小路が結びつく。前者に高速度交通機關トラツクが疾走輻輳すれば後者には子供が嬉々として戯れてゐる。

幹線道路の設計は大きな世界(例へば全國的關係並びに全市的關係)を基礎にして考案されなければならぬが、此の末梢的小路の場合には一小地區を集團的に基礎として取扱へばいゝ。今假りに之れを住宅集團地區とすれば之れを如何に設計するかと云ふ課題が都市計畫關係者に與へられる。都市計畫はもつと大局の事をするものと言つて高踏的であるのを許されない。蓋し都市は既に述べた様に全國的意義と之れに關聯する大きな機能とを持つてゐるが、其の反面には純消費體として市民の生活便宜を考慮しなければならぬからである。

是等の住宅集團地區は今日では自然發生的に成立してゐるが、之れを正しく設計する事は之れからの都市計畫の充分に注目して行かねばならぬ所であらう。昨年の全國都市問題會議とは、都市構成の單位區劃としての報告が載せられてゐる。(第六回總會文獻二號「都市計畫の基本問題」下一六頁)なほ學者自身も此の問題に就いては豫てより問題とした事もある。第五回全國都市問題會議研究報告參照今、此の住宅集團地區の設計に際して、吾々の立場から必要とせらるゝ條件を掲ぐれば次の諸點である。

(一) 住宅集團の大サ、従つて地區の面積。之れはいづれにしても大に過ぎず小に過ぎざる事を要するが、其の過不足なき廣サを決定する條件としては、

(イ) 小學校、兒童遊園等を中心として組織するに足る丈けの人口量たるを要し、
(ロ) 治安治警上より見て警察署又は分署、或ひは駐在所の監督地區たるに好適な面積たるべく、
(ハ) 經濟上配給上よりして市場を中心として近隣の商圈を構成し得る範圍たるべく、即ち徒歩にて急用に間に合せ得る距離たるべき事。

(ニ) 文化的施設、例へば圖書館、公會堂、競技運動場、小公園等の手近かく利用し得る範圍たるべく、
(ホ) 最後に各戸に密接な接觸を保ち得る狭す、即ち近隣相識の間柄たる可き事を期待するが故に、あまり人口の過大ならざる事を要する、換言すれば前記の諸施設を利用するにしても、利用者がお互に町内の顔見知り位の親近さは保存せしめたい事。

なほ之れ以外に此の集團の大サを決定すべき條件もあらうが、大體の點をあげれば是等の條件によつて制約せらるべき面積又は人口たるべき事。家に次いで考へらるべき事は、

(一) 住宅集團地區は、各種各様であるから、其の内容、即ち住民の經濟的職業的身分的構成に就いて留意すべき事、従つて是等の相違に基いて當然設計の様式も異らざるを得ないから。又共同住宅的であるか、獨立住宅的であるかの相違も當然考へられねばならぬ。共同住宅が高層建築となつてゐる時は等のものゝ數多く相接する地區となると、前條(ホ)の規定に反して來るからして此の場合には一層の留意を要する。反對に、地區の面積が狭少な場合、低層の獨立家屋の散在形式によつて、土地利用面積が分割される恐れある場合は適當に、高層の共同住宅形式をとつて、解放された土地を公共的

方面に利用する必要がある。前述した家屋密集の下町地區に兒童遊園縁地を設ける場合への注意。

(三) 地區内部の設計は、居住者にとつて最も快適たる可き事。自家のみならず附近一帯が自家の延長として親しまれる可きものである事。例へば街路にしても、玄關先きの前栽の延長であり、庭先の延長であり、公園、緑地、遊園等に就いても同斷である可き事。換言すれば此の地區に足を踏入れた時既に、吾家に入つた所感を與ふるが如き快適親密さを持たしむる様心がけられねばならぬ。其の爲めの個々の技術に就いては、

(イ) 此の一集團地區を何等か形象的に封鎖する事。所謂ゼンユロツセンハイトを効果的にする事。

(ロ) 内部的には空間的に擴がりを狭くして相接するの所感を効果的たらしめる事、即ち道路なぞむしろ或る狭さを強調したい。

(ハ) 所用なき外出侵入者を許さない事、殊に通過交通特に自動車の通過乗入れを禁止する事。前述した様に自分の庭、玄關先の一部と考へたい所であるからして、用なき他人が勝手に徘徊する事は頗る氣分を害ふと共に、不安を醸成する。各種の意味で安全感を確保しなければならぬ。

(ニ) 地區の中心形象に重點を置く事。小學校、公園、公會堂であれ又市場、商店街であれ、中心の所在を明かにして、其の中心にはつきりした形象を與へる事、即ち地區住民が共に「吾等の……」と望み眺め得る中心を設ける事。

(四) 次に集團地區と外部との關係に就いての設計、即ち住民の生活はこゝだけに終らない。ここに居宅の生活があれば、外の地に職場の生活がある。故に此の地區と職場地區との連絡を考へねばならぬ。道路體系から見れば連絡道路から幹線道路への結びつきである。此の連絡結合が好適でないとき、その地區は決して住民から高く評價されない。

此の外になほ考へる可き點は頗る多いであらう。しかし餘り長くなるので此の位に止めるとして、之れによつて如何に街路の區劃の、廣場の、交通路線の設計なり整理なりが内に多くの精神的の内容を含んでゐるか分るのであらう。二重橋の前を電車や高架線が通つたらば宮城の森殿が少からず害せらる。神社佛閣の境内を鐵道や電車、トラツクなどが我物顔に横行したならば、同じく壯嚴が傷けられる。學校にしても、町の眞中にあると學園風景は乏しくなる。

かう考へて來ると、都市計畫その他の所謂土木工事業の深い面白味が分つて來る。市民が此の事情を了知する様になつたら恐らく、都市計畫そのものに對する關心の飛躍的に増大するものがある。道路愛護その他、公衆道德的標準も非常に高まるであらう。此の方面の啓發を望んで止まぬ次第である。

(昭和十四年二月稿)